

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 香川こだま学園			
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日 ~ 令和7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44家族	(回答者数)	43家族
○従業者評価実施期間	令和7年年 1月 14日 ~ 令和7年 1月31 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月23 日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの発達状況を基本に、子どもが自ら遊びやごとばを育てていけるように、子どもの自発性を重視した療育を行っている。	子どもの気持ちや興味に寄り添った1対1での丁寧なかかわりを基本としている。 子どもが遊びや用途を選択できるように部屋ごとに玩具などの種類や配置に特色を持たせている。	それぞれの子どもの感覚特性や運動発達を踏まえてさらに感覚運動的な教材やプログラムを充実させていきたい。
2	地域の母子保健や医療との連携のもとで早期からの療育に取り組み、子どもたちが地域で育っていけるように支援している。	療育等支援事業を活用し、保護者が無理なく児童発達支援を理解し利用できるようにつながりを持たせている。	保護者や家族が参加しやすい場を提供し、家族支援を充実させていきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながり	地域に連携した施設が少なく、また以前はこだま祭りなどで行っていた地域住民や児童との交流の場がコロナ禍を経て無くなってしまった。	こだま祭りなどの行事で地域の親子が気軽に立ち寄れるようなイベントを設けるなど工夫していきたい。
2			
3			